

「沢内三千石 お米(よね)の出どこ 枳ではからないで 箕(身)ではかる」

岩手南部森林管理署 新町森林事務所

奈良真吾

Nara Shingo

これは「沢内甚句」の歌詞で、お米はおよね、箕は身であると解釈されています。江戸時代天保の飢饉(1833~36年)では凶作は甚大で、ホシナ(大根の葉を干したもの)やワラビのデンプンで食いつないだ者はまだ良い方で、わらや草の根を掘って食べるという生活は困窮を極めたと伝えられています。そうした背景のなかで年貢米を献上できずに、泣く泣く村の娘(およね)を差し出した悲哀の物語を謡ったものであり、知っている方もいるのではないのでしょうか。

私が勤務する新町・川舟森林事務所はこのような歴史をもつ旧沢内村(現在は西和賀町)を管内とし、和賀山塊の主峰和賀岳(1,440m)を望む美しい地域です。和賀(わが)とは、アイヌ語で「わか(水・水飲み場・清き流れ)」という意味です。その名のとおり冬は優に2mを超える豪雪地で、年間を通し約2,500mmの降水量がある水の豊富な地域です。そして春や秋には日が高く昇るまで霧が立ちこめる日が多いのも特徴の一つではないのでしょうか。このような気候を有した地域だからこそ質のよい山菜が豊富に採れます。特に粘りが強くアクの少ない美味なワラビ、「西(にし)ワラビ」がとれることで有名です。地元では様々な山菜がボリューム満点で食べられる食堂があるのも魅力の一つです。

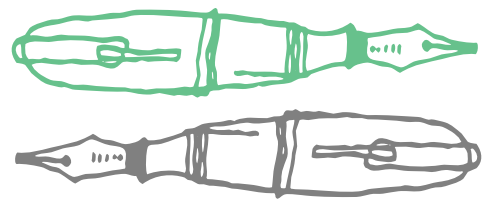
和賀岳のほかにも高下岳や真昼岳といった素晴らしい山



食堂の人気メニュー



貝沢地区より遠望した高下岳



森林官からの手紙

があり、登山の途中では見事なブナ林を見ることができます。また、汗をかいた後には温泉や地ビール(銀河高原ビール)を楽しむことができます。このような自然豊かな沢内に一度足を伸ばしてみたいはいかがでしょうか。

さて、今年5月に赴任し早4ヶ月が経ちました。中でも一晩で250mmを観測した6月末の大雨では自然の猛威を感じさせられ、地元の方がこのような大雨は初めての経験というほどで、多くの林道が土砂崩れの被害にあいました。身をもって林道の重要性を認識させられた機会でもあります。森林官として初めての業務に戸惑いも多いですが、職場の先輩や仲間を支えられながら、何とかやっているところです。近年は各地で異常気象も当たり前ようになってきていますが、それに負けないような山作りを目指して、これからの業務に取り組んでいきたいと思えます。



沢内のシンボル およね像